令和４年度
総務文教常任委員会
行政調査報告書

総務文教常任委員会　行政調査報告書

１．日程及び調査先

日　程:令和４年 10 月 24 日（月）～26 日（水）

調査先:佐賀県武雄市、福岡県筑後市、福岡県豊前市

２．調査事項

①10 月 24 日（月）15：00～　武雄市図書館

武雄市図書館の運営状況について

②10 月 25 日（火）9：30～　筑後市議会

移住定住関係（定住促進事業について、移住定住のサポートについて）

③10 月 25 日（火）14：00～　豊前市議会

移住定住関係（定住促進の取り組みについて）

３．参加者

委員長　鈴木　裕雅　　副委員長　鈴木　清

委員　奥山　格　　委員　大類　好彦　　委員　青野　隆一

委員　星川　薫　　委員　菅野　喜昭

４．報告

≪委員長　鈴 木 裕 雅≫

・佐賀県武雄市　図書館関係

ボランティアや企業を活用しどんなイベントでも行い、来館していただけるように努力している。まかせっきりではなく月に数時間の打ち合わせを行い、理解を深めている。民間に議会のチェックは不要。文化・知識のレベルアップがライフスタイルの多様化や強化、発見へとつながる。キャットウォークに AC 電源、広めにレイアウト、PC・タブレット等を使えるスペースとして活用。

話せる学習室や BGM のある空間、無料 Wi-Fi など従来の静かな図書館ゾーンだけではなく対極にある音のあるゾーンを作るなど、お客様にとってなにが良いのかを最優先に考えている。365 日年中開館、９時開館から 21 時閉館など、来館者を獲得するために企画会社の提案により魅力度の向上に努めている。大手コーヒー店の出店などがそれにあたる。オシャレ感と清潔感が大切。

市民アンケートにより 600 タイトルもの雑誌をそろえる。本を借りる場所から体験する場所へと様々なイベントはきっかけ作りであり、女性や中年男性などターゲット

を絞ったイベントで来館者獲得を目指している。

本市において多少のイベントが行われているものの、大幅な誘客には至っていないのが現状である。また、民間企業とのマッチングには接点やデモモデルの形成などイメージしにくい部分があるが、不可能ではないと思われる。

・福岡県筑後市　移住定住関係

恋木神社

アピールする時のポイントとしては、コンセプトと知名度の高さを最大限に利用している。庁内の統一ブランドとしての総合力が大切。事業の進めやすさや様々なアイデアに結び付く。公立の学童を小学校と保育園を融合など、ちょっとした事の積み重ねによってブランド力を上げている。また、キャラクターを活用し、フォルダ内のデザインを誰でも使用できるところも評価できる。新しいデザインとして、コロナに対応したマスクデザインなども考えている。効果のない事業は整理している。これらの取り組みにより人口が増加している。特に、結婚を機に移住してくる人が多い。

本市においては、コンセプトとして活用できるものと目指すものをより鮮明にする必要がある。銀山温泉、夏スイカ、雪降り和牛、徳良湖、花笠音頭、踊り、豪雪、温かな人柄、雄大な山々、災害の少ない地理など。何をどう活かし、いかにアピールするかが課題といえる。目指すべき将来像を探り、共有することが人口増加への道筋だと感じる。

・福岡県豊前市　移住定住関係

田舎暮らしの空き家バンク

明治時代に建てられた空き家を改修し有効に活用し、体験の家を整備している。古い住宅だが都市部には無い趣があり魅力を感じる。ただ、田舎暮らし特有の、移動手段がないと買い物へも行きづらいなどの点もある。

本市においては、冬の管理がネックになる。無人となった住宅は瞬く間に雪に覆われ、外壁や軒先が破損してしまう。雪解けの時期には多大な修繕費用が必要となり、危険家屋へと変容してしまう。空き家を活用する政策と同時に、管理する仕組みづくりが必要だ。空き家の所有権や管理責任、健全住宅と不良住宅の区分け、該当地区との関係性など、所有者と該当者、行政、地区での相互の取り組みが必要となる。

総務文教常任委員会として利点と課題とを共有し、これからの地域づくりのあり方を摸索しなければならない。

≪副委員長　鈴 木　 清≫

◎佐賀県武雄市「武雄図書館の運営状況」

「それ、武雄が始めます」の積極的なスローガンが武雄市にある。2013 年、樋渡啓祐前市長が「図書館が街を創る」発想で、指定管理者ＣＣＣ(カルチュア・コンビニエンス・クラブ)によって図書館のリニューアルを行った。それは図書館の革命と言えるものとなった。従来の「静粛に」「飲食禁止」などの禁止事項をなくし、管理運営をスターバックスと蔦屋書店に任せている。司書・店員合わせて 60 人、蔵書 300,000 冊、貸出冊数一人当たり 10 冊、行政視察 200 件以上、イベントは年 1,500 回、運営費 1 億 7,000 万円で新しい公共施設が実現。「行政でできなければ、民間の力を借りて」と言う発想は革命の起爆剤としては充分だが、問題がないわけではない。貸し出しより書店・雑貨の販売があり、本の分類はＮＤＣ（日本十進分類法）ではなく、独自の 22 分類(書店の分類)をとっていることだ。評価できる点は、多種多様なイベントの開催、子どもから 60 歳以上までの「年代別講座」もある。ＣＣＣの指定管理で良いかは別として、本に親しみ図書館に親しむイベント重視の運営は、北欧型の図書館に近づいていることに驚き、期待したい図書館である。

◎福岡県筑後市「移住定住の取り組み」

『「恋の国筑後市」はなぜ移住先に選ばれるのか？』魅力の打ち出し方やコンセプトの作り方を伺った。「結婚したら筑後にいました」と転入の理由に結婚が圧倒的に多い。恋木神社の縁結びから、出会い・結婚・子育てまで、そして住む・働く・暮らす・市の PR まで豊富で理にかなった移住定住をサポートする事業が並んでいる。移住が多ければ当然出生数も 427 人(出生率 1.77)と多く、第 2 期人口ビジョン総合戦略の内容が素晴らしい。様々な事業は職員から企画を募り、費用対効果と利用者アンケートで検証し、財源を工夫している。圧巻は「定住シュミレーション Book 恋 Live」だ。移住の指南書決定版だ。さらに、関東圏に 280 名いる「筑後市ふるさと応援団(団員募集中)」の取り組みもユニークだ。雪深い本市では転出が多いが、弱みを強みに変えていくコンセプト作りから始めなければならないと思う視察であった。

◎福岡県豊前市「空き家バンク制度・体験の家」

「ちょうど良い暮らしがここにある」と言う豊前市。パンフレット「ぶぜん暮らし」には「豊かな自然、前向きな暮らし」のキャッチコピーがあり、誰が座るのか巨大な椅子に目を瞠る。山も海もあり、求菩提山は山伏の修行の地であり、それ由来の「カラス天狗祭り」があり、豊前神楽の伝統も息づいている。地域おこし協力隊は 16 名にのぼ

り、牡蠣の養殖を行う漁師となった方もおられる。

空き家バンク制度の説明を受け、平成22年までの調査で760件の空き家を確認。特徴は、免許を持った空き家バンク専任職員を採用していることだ。ここ10年で350件の契約が成立。空き家バンク利用者は年間50～60件であると言う。制度の目的は「空き家の有効活用を通して、都市住民との交流拡大及び活性化を図ること」だと言う。

次に、実際にお試し体験の「山内のいえ」（1日1,000円）を視察させていただいた。築100年以上の蔵付き井戸付きの武家の家らしく、家紋が入った瓦が見事だ。梁や戸袋付きの縁側が懐かしく、一句。「古民家の瓦見守る彼岸花」秋には真っ赤な彼岸花が畦道に遠くまで咲き誇ると言う。年間の利用者は30人ほどで、遠くは京都・滋賀からも訪れると言う。地方創成の資金28,000,000円でリノベーション。ちょうど良い暮らしを本市でも作り出さなければならないと思う。

≪委員　奥 山　格≫

① 佐賀県武雄市

佐賀県の武雄市図書館を視察。館長が武雄市図書館について説明してくれた。そして図書館は市長が東京の代官山の図書館について着目し、それを運営している方法に感心して、こういう図書館を作りたいと考え作ったもの。そしてその運営をＣＣＣ（カルチュア・コンビニエンス・クラブ）にお願いして頼んだという。現在ＣＣＣが指定管理者として運営している。居心地の良い図書館を目指した。また若い人たちに魅力のある図書館にするため、図書館の看板などをデザイナーに頼んでデザインしてもらった。利用者の増加を目指してイベントを年１，５００回も行っているという。講演会、講座、教室などいろんなことをしているという。東京でないといろいろな文化に触れられないのが、若い人たちにとって地方に魅力が感じられないところである。だから武雄市にいても東京とおなじような色々な文化に触れられるようにしようと考えたそうだ。セルフカウンターがあり、自分で貸し出しの手続きができる。またメディアホールがあり、講習会や講演会、イベントなどに活用されている。希少本コーナーもあり、佐賀県や武雄市などの資料が置かれている。図書館の中に歴史資料館がある。ここには蘭学関係、鍋島藩の貴重な資料（国重文）や戦国大名の書状（市重文）など収蔵されている。学習室が様々なところにあり大変立派であった。また点訳・対面朗読サービス室があり、視聴覚障害など読書が不自由な人にも対応したサービスを行っていた。また子供トイレや授乳室を設置していた。図書館であっても有料の本の販売コーナーもある。コーヒーを飲めるスターバックスも入っている。また若い人たちが飲食ができるコーナーもある。とにかく図書館に来てもらうことを大事にしている。またこども図書感が隣接している。中にはパンケーキカフェもあり、食事もできる。

公共図書館の在り方として、本市でももっと、利用者が増加するような取り組みをすることは、本市の活性化にもつながり、本市の魅力にもなるのではないかと思った。

② 福岡県筑後市

筑後市役所で移住・定住関係について行政調査をした。総務部企画調整課より説明を受ける。筑後市は人口４９，５３２人。出生率は、１．７７で福岡県平均や全国平均より多い。人口は社会増で推移していたが、２０２１年は社会減になっている。また自然増で推移したが２０１０年から自然減になっている。未婚率は、男女ともに全国平均、県平均より下回っている。転入の理由としては「結婚」が圧倒的に多い。筑後市の人口将来展望は、１．筑後で働く（希望をかなえる雇用の場を確保する）２．筑後に人を呼ぶ（筑後市への新しい人の流れをつくる）３．ちくごで育てる（安心して産み、育てられるまちをつくる）４．ちくごを愛する（豊かな心を育み、筑後市に愛着を持つ人材を

育てる）５．ちくごで暮らす（安全・安心で活力のある街をつくる）。

筑後市はなぜ人口が増えているのかについては、周辺自治体より交通利便性が高い。（ＪＲ九州、新幹線、九州自動車道）、生活環境の良さ、安全安心、民間開発（ほどよく都会で田舎、災害が少ない）新婚世帯の転入（結婚新生活支援、出生率につながる）子育て環境の良さなどである。

筑後市の人口増加の理由は、以上の交通利便性や周辺自治体に観光地の柳川市やお茶の産地の八女市やまた久留米市などがあること、福岡ソフトバンクホークスのファーム本拠地になったこと、芸術文化の交流・体験拠点として九州芸文館があること、また若者に受ける恋木神社があり、「恋のくに」として観光の宣伝をしているところも大きいと思った。

③ 福岡県豊前市

豊前市は、面積１１１．０１平方キロメートル、人口は２４，９４０人（令和３．１．１）である。豊前市では、定住促進の取り組みについて行政調査を行った。空き家バンク制度についてであるが、豊前市内の空き家の有効活用を通して、都市住民との交流拡大及び定住促進による人口の増加、ひいては地域の活性化を目的として、これらの目的を達成することで、空き家の環境衛生面の改善や火災・防犯灯の安全面の改善も期待されている。平成２１年から２か年で市内全域の空き家調査を行い、７６０軒の空き家を確認している。平成２４年度から豊前市空き家情報登録制度をスタートし、これまで登録物件３００件、利用希望件数５９２件、契約成立は売買１０５件、賃貸８２件の計１８７件であり、契約成立率が高い。

次に古民家を活用している事例として「山内のいえ」を視察してきた。これは築約１００年の古民家を改修して、お試し居住、住民交流、田舎暮らし体験、農業体験の目的である。改修費用は２，８００万円であり、国の地方創生加速化交付金を使った。山内の家はもともと農家であり、蔵や小屋もあり、敷地が広い。近くには豊前神楽の伝承団体「山内神楽講」があり、周辺には田園が広がる。古民家は縁側をガラス戸にして外の景色を眺められるようにした。また台所を改修したり、蔵も泊まれるように改修している。利用料は電気代、ガス代、ＮＨＫ受信料、浄化槽管理料等をも含め１日当たり千円である。テレビや冷蔵庫、エアコン、電子レンジ、洗濯機、炊飯器、食器などの生活用品はほとんど備え付けられているが、寝具はない。利用する人は何人でも利用料は千円である。内部は広々としていて、ゆったりとしていて、お試し居住には大変良いと思った。

豊前市は空き家の利活用の取り組みを頑張っていて、本市でも大いに参考になると思った。

≪委員　大 類 好 彦≫

佐賀県武雄市

武雄図書館の運営状況について

平成25年4月リニューアルオープンをきっかけに、指定管理制度を導入し民間活力を利用した。それまでは、どこにでもあるような図書館だった。若者世代・子育て世代を特にターゲットにした。年中無休で開館時間は9時から21時まで、居心地のいい図書館を目指しカフェ・書店を併設。本を販売する図書館に。図書館の修繕工事は夜間に行う徹底ぶり。普通の図書館は、飲み物・話し声は厳禁だが、ここはOKである。年間1,500回のイベントを開催している。イベント会場の様な図書館である。尾花沢市の図書館も出来たときは、他市から視察研修にくる最先端の図書館でしたが、現在は話してはいけない、手提げを持って入ってはいけない、比べると一昔前の図書館に成ってしまった。一気に変えるのは難しいことも有るので、出来ることから取り入れて欲しいと考える。

福岡県筑後市

移住定住関係　定住促進事業について　移住定住サポートについて

筑後市の人口は49,532人で尾花沢市の3.23倍、出生者数は、427人で尾花沢の7.91倍である。筑後市が選ばれる転入の理由として結婚が圧倒的に多い。家賃補助、出産祝い金事業、マイホーム取得支援事業など、特に高額ではないものの広く事業を展開している。ダメな事業は直ぐ止める。一般財源は使わない、補助事業を探して持ってくる。そうした考えも、やる気を感じる。質問してみると、どうやら市長の選挙公約でもあったようで、市長の意気込みと職員の行動・努力が有るようだ。

福岡県豊前市

空き家バンク制度について

平成21年から空き家調査など準備を始め、空き地空き家管理適正化条例、ホームページ作成、空き家所有者にアンケート実施などを経て、平成24年から空き家情報登録制度をスタートした。古民家再生地域資源活用整備事業で2,800万円をかけて改修した古民家を一日1,000円で借りられる。100年程前の古民家見学に時間を使ったが、担当職員の強烈な個性を感じた。事業が上手くいくには、入念な下調べと準備、地道な努力と実行、そして担当職位の熱意が有ると感じた。

三つの市で、目標に取り組み達成している陰に情熱的な職員がいた。尾花沢市にもそういった職員は必ず居るはずである。適材適所で頑張っていただきたい。

≪委員　青 野 隆 一≫

初日に視察した佐賀県武雄市図書館・歴史資料館は、平成１２年に開館しましたが、来客数の伸び悩みや利用者数の固定化など多くの課題を抱えていました。そのため、平成 25 年４月に『図書館はまちづくりの核（エンジン）になるのでは』という発想で、民間事業者カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社（略称:ＣＣＣ）を指定管理者としてリニューアルオープンを行いました。『便利』で『役に立つ』図書館像を目指し、①いつでも利用できる図書館（年中無休）②居心地のいい図書館（図書館、書店、カフェが融合・話せる学習室、コンセント付き座席）③体験できる図書館（年間 1,500 回以上のイベントや講座）を実現しています。また、平成 29 年には、こども図書館を併設し、①仕切りのないオープン空間②こどもの好奇心を育むフロア設計③どこでも講座やイベントができるフレキシブルな仕掛で、しばふ広場やフードコートもあって、まるで『家』のような図書館となっています。

図書館は本を借りるところ、静かにするところという、これまでの既成概念を根本からひっくり返すものでした。武雄市図書館は、指定管理料 1 億 7,800 万円、職員スタッフ 60 人、令和 3 年度入館者数 757,921 人で、特に 30 代から 40 代の女性の貸出利用者が圧倒的に多い状況です。また多彩なイベントは、自己啓発・自己研鑽するためのきっかっけづくりの場として位置づけられ、私たちの考える図書館ではなく、生涯学習の場としての図書館となっていることに感心させられました。シーンと静まり返った図書館ではなく、市民のだれでもが憩える図書館に変えていかなければならないと実感させられました。悠美館のあり方について考えていくためにも、大変参考となる視察でありました。

二日目の前半は、福岡県筑後市を訪問し、『定住促進事業』について研修を行いました。『恋をしたら築後にいました。』『恋の国～ひと想うまち筑後～』をキャッチコピーにし、転入者数が転出者数を上回り、合計特殊出生率も全国平均を大きく上回るため、人口が増え続けています。筑後市が転入先として選ばれる理由は、21.2%が結婚を機に新生活の場として選んでいます。また、婚活サポートセンター事業は、ＮＰＯ法人に事業委託し、3 自治体の広域で事業を実施しています。令和 3 年度の婚活イベント開催数は 6 回で 7 組のカップルが生まれ、お見合い件数 122 件で成婚件数 17 件となっており、生涯未婚率も全国、福岡県を大きく下回っています。

確かに、福岡などの大都市圏からのアクセスの良さも大きく影響しています。しかし、①人口 50,000 人または県内人口シェア 1%以上を目指すという明確な目標を定めた『定住促進行動計画』を策定し、②定住は定住応援課、婚活は社会教育課と機能分担するの

ではなく、計画をまちの総合力として位置づけ企画調整課が担当しており、③筑後市における定住促進計画目標が一元化をされ、全庁、全職員に浸透しているために、全庁的な連携が取りやすい体制が構築をされていると感じました。少子化対策庁舎内プロジェクトの検討も始まっています。さらに、市長の『なるべく一般財源を使わない工夫を！』という理念や、ＰＲキャラクターの『はね丸』をできるだけ多く使うことにとって市としての統一感をだそうという思いがまちづくりの根底にあって、不断に事務事業の見直しを行って、転入者新幹線定期券購入事業や空き家物件視察見学事業など事業効果の薄いものはどんどん打ち切りするなど、メリハリの利いた事業推進が行われていることについても、大いに参考にさせていただきたいと感じました。

二日目の後半は、福岡県豊前市の『古民家再生地域資源活用整備事業』について視察を行いました。豊かな自然、前向きな暮らし『ぶぜん暮らし』という冊子を作って移住推進に取り組んでいます。ここも北九州や福岡などの大都市圏とアクセスが良く、定年後の移住者が多いとのことです。その拠点施設として、明治時代に建築された古民家を改修し、お試し体験居住を行い、移住後の住居や仕事探し、歴史文化体験、農業体験などが出来るようになっています。利用期間は、2 日以上 30 日以内で、利用料金は 1 日当たり 1,000 円です。素晴らしい施設ではありますが、実際の利用率は低いということであり、尾花沢市として、どう活かすのかは難しいように感じました。

以上、3 件の先進地事例を研修させていただきました。武雄市では、民間事業者に指定管理することによって、行政には難しい発想力や企画力が発揮されるとともに、これまでの固定観念を打ち破り、より市民の満足度の高い図書館運営がなされています。また、筑後市では、総合振興計画が心地よい文章表現としてではなく、市長を先頭にしっかりと全庁的な合意形成を図りながら、行政目標を確実に達成するためのまちづくりが進められています。多大な公費負担をいただいての視察研修を、今後尾花沢市のまちづくりに活かしていくための政策提案に結び付けていかなければならないと考えます。

≪委員　星 川　薫≫

◎佐賀県武雄市

図書館の運営状況について

武雄市図書館は、コンセプトを「市民の生活をより豊かにする図書館」と掲げ、目指す図書館像として「便利」で「役に立つ」図書館を謳っている。その上で図書館像を大きく３つ掲げている。

①いつでも利用できる図書館

・365 日 年中無休、開館時間は 9：00～21：00

②居心地のいい図書館

・図書館、書店、カフェが融合（飲み物を飲みながら、本や談話が楽しめる気楽な場所）

・ニーズに応える多様性（読書、勉強、談話、話せる学習室、無料 WI-FI、コンセント付座席など）

③体験できる図書館・・・「ライフスタイルの提案」提案型図書館

・数多くのイベント開催（いろいろな分野の講座、ワークショップ等 年間 1,500 回以上開催）

・各世代を対象に、キッカケづくり、生き甲斐づくりに繋がるような企画

・特に子供、親子向けの提案型の体験イベント充実

上記の構想実現のため、武雄市は民間（CCC：カルチュア・コンビニエンス・クラブ）と手を組んで図書館づくりに取組んだことが功を奏し現在は県外からも訪れる図書館となった。これまでの図書館のイメージを脱却し、どうしたら人が来るのかを第一に考え、楽しむ図書館を実現したことは、大いに参考になると共に私も毎日通いたくなる図書館であった。当市図書館も築年数も経過し、近隣市町の図書館が新しいことから、頭を柔らかくして見習わなければならないだろう。

◎福岡県筑後市

筑後市定住促進事業について

定住促進事業メニューは確かに豊富であり本市と同様の事業が殆どである。補助額も尾花沢市の方が高い。しかし、筑後市は人口が増えている。それは、街に魅力と活気があるからだ私は思う。ソフトバンクホークスのファーム球場を誘致したことは大きな要因であると同時に周辺自治体より交通利便性が高い（JR 九州、九州自動車道など）ほか、生活環境の良さ、安全・安心、民間開発（ほどよく都会で田舎、災害が少ない）、外国人（技能実習生）の転入、新婚世帯の転入（新婚新生活支援、出生率に繋がる）、

子育て環境の良さが挙げられる。また、地域おこし協力隊の制度を活用し、若い世代の出会いの創出や結婚応援及び都市部居住者が筑後市を知る機会創出を図り、地方創生の目的の一つでもある未婚化・晩婚化の解消等に寄与する「素敵な出会い応援事業」も魅力的で素晴らしい事業である。当市も若者が出ていかない、回帰する事業を創設しチャレンジしていくべきである。

◎福岡県豊前市

移住定住の取り組みについて

豊前市が力を入れている事業として、空き家バンク制度がある。平成 24 年よりスタートし現在（令和 4 年 3 月 31 日現在）で 254 件利用登録者があり、現在でも 50～60 の物件数がある。全国市町村でも空き家は増えており、平成 22 年度の豊前市の空き家は 760 件を確認しており、深刻な状態が判明し、同年「豊前市空き地及び空き家等管理の適正化に関する条例」と改定し、行政代執行の条項を加えている。また、平成 26 年には、議員提案により空き家除却後の固定資産税の減免条例制定をしている。管理不全空き家や特定空家を増やさないためにも減免条例は参考としたい。

また、移住事業の一つでもあるぶぜん暮らしを体験できるお試し居住施設「山内のいえ」を視察させていただいた。農家の母屋と蔵を改築し、水回りと寝室もきれいでロフトもあり、子どもが喜びそうな間取りであった。利用者数は年間 30 人程度で、利用期間は２日以上、30 日以下で利用料金１日当たり 1,000 円と格安で体験すしやすい設定となっているところも魅力である。当市も起業型シェアハウス（女性限定）や移住体験事業で１日 5,000 円補助を行っているが、違う目線で考えることも重要であろう。

最後にコロナ禍の中でも行政視察を受けて下さった各市様に感謝するとともに、各市の課題や事業をご教授いただき、見識を深める意義のある調査であった。

≪委員　菅 野 喜 昭≫

１　はじめに

私はこの度、総務文教常任委員会の一員として、10 月 24 日～26 日の間、佐賀県武雄市、福岡県筑後市及び豊前市三カ所において、視察をしてまいりました。以下、視察場所・視察項目毎にその概要・所感について報告します。

２　視察場所「視察項目」及び概要等

（１）　佐賀県武雄市：「武雄図書館の運営状況について」

ア　新図書館指定管理制度導入

平成 25 年 4 月（リニューアルオープン）

イ　新図書館構想

（ア）いつでも利用できる図書館（365 日年中無休、開館 9：00～21：00）

（イ）居心地のいい図書館

（ウ）体験できる図書館

ウ　企画・運営

（ア）武雄市と指定管理者（ＣＣＣ）が提携

（イ）蔦屋書店及びスターバックスを入館営業

（ウ）多種多様なイベントを開催（講座、ワークショップなど）

（エ）子供図書館建設・併設（平成 29 年 10 月）し、子育て中心に交流

エ　これからの目標

地域の課題解消と学びを通した賑わいづくり

※　図書館＝自己実現の手助け

オ　所感

新図書館は、来館者数の伸び悩みや利用者が固定化することで魅力　化が必要とのことで導入されたのが始まりである。平成 29 年度には、こども図書館も併設し、さらなる魅力化に努めている。武雄市の人口は、約 45,000 人で当市の約 3 倍であるため、図書館の中に民間の書店やカフェの併設など CCC と提携できるものと思われる。

しかしながら来館者数は、平成 25 年度のリニューアル時は、約 923,000 人で、ピーク時は平成 30 年度の約 1,073,000 人に増加したが、令和 3 年度には、約 757,000 人に減少し、リニューアル時の来館者数を下回った。

現在、指定管理料は、約 1 億 7,000 万円となっているとのことであるが、当市としては予算的にも課題があると思われる。

武雄市とはまた違う魅力ある図書館のあり方について、検討する必要があ

ると考えさせられた。

（２）　福岡県筑後市：「移住定住関係について」

ア　筑後市定住促進事業

（ア）定住促進事業　１

- 結婚サポートセンター事業
- 結婚新生活家賃支援事業
- 多子出産祝い金事業
- マイホーム取得支援事業
- 定住促進プロジェクト事業
- 素敵な出会い応援事業
- 移住支援補助事業
- 奨学金返還支援事業

（イ）　定住促進事業　２

- 中古住宅リフォーム補助事業
- 空き家バンク事業
- 転入者新幹線定期購入補助事業
- ちくご暮らし体験事業
- ふるさと案内人事業
- 空き家物件視察見学事業

（ウ）　最近の取り組み

- 筑後市臨時特別出産祝金
- 筑後市結婚応援事業
- 明るい未来へ！スマイルプロジェクト
- ハッピー「移籍婚」プロジェクト
- 八女高コラボ企画

イ　所感

筑後市の人口は、平成 25 年度の 49,075 人で、経年いくらかの増減はあるものの、令和 3 年度には、49,150 人であり、ほぼ横ばいか増加の傾向がある。この理由は、色々あるようだが、社会増減（転入数－転出数）は、転入数が転出数を上回り続けていたことであり、また、自然増減（出生数－死亡数）は、平成 22 年まで出生数が死亡数を上回り続けて自然増であったためであるとのことである。

なぜ、人口が増加するのか、これは、筑後市が立地の良さとゆとり空間を兼ね

備えており、結婚を機に新生活の場として選ばれているとのことである。当市において、立地条件は高速道路の開通と国道 347 号線の通年通行により、だいぶ良くはなったものの、冬季における積雪量により生活にゆとりがなくなることが課題であると思われる。いかに克服するかが課題解決の糸口であろうと考える。

（3）　福岡県豊前市：「豊前市空き家バンク制度」

ア　目的

空き家の有効活用を通して、都市住民との交流拡大及び定住促進による人口の増加、ひいては地域の活性化を図る。

イ　今後の課題

利用希望者のニーズに応えられるような物件が少ないため、今後さらなる物件の登録を進めていくことと、民間活力の導入など、空き家バンク利用率向上のための新たな施策の検討が必要である。

ウ　所感

ぶぜん暮らしの体験の家「山内のいえ」を見学させていただいた。立地場所は、隣の町の航空基地から飛んでくる戦闘機のジェット音も心地よいのどかな所であり、体験の家も古民家を的確に改造し、本当に住みたくなるような家であった。雪も降らず、寒さもそれほどでもないので住んでみたいという気持ちになった。やはり空き家は、いくらうまく改造できたとしても、当市においては、積雪に対する処置等対策が必要であり、この課題をいかに克服するかにかかってくるものと思われる。

3　おわりに

この度の佐賀県武雄市の「図書館の運営」、福岡県筑後市及び豊前市の「移住定住」の視察研修において、今後のまちづくり等の参考にさせていただきたいと考えています。